

# 平成 25 年度社会貢献プロジェクト

## 美術による復興支援

### 夏休みアート・デイキャンプ 2013 の実施

代表者：太田 圭(芸術系・教授)

分担者：石崎和宏(芸術系・教授) 玉川信一(芸術系・教授) 内藤定壽(芸術系・教授)  
藤田志朗(芸術系・教授) 田島直樹(芸術系・准教授) 福満正志郎(芸術系・准教授)  
仏山輝美(芸術系・准教授) 程塚敏明(芸術系・准教授) 山本浩之(芸術系・准教授)  
協力者：小野裕子(芸術系・助教) 宮城正作(芸術系・特任研究員) 大学院学生 芸術専門学群学生

**背景：**小学校の図画工作、中学校の美術、高等学校の芸術(美術)では、授業時間数の関係から、長い時間をかけて物を観て描くことや、実物の作品を鑑賞するといった、表現力、創造力、感受性などを育む経験をすることが少なくなっている。この現状を危機として捉え、微力ながらも美術教育を支援する事業として平成 20 年から続けている。

**目的：**筑波大学で芸術に関わる人的資産(教員・学生)と、芸術資産(学内の展示作品)を活用した「制作と鑑賞」のプログラムを通して、創造的で自由な心を持つ子どもたちの人間形成に寄与するため。特に今回は、震災復興地の子どものための支援と交流を踏まえて実施した。

**実施内容：**本事業は、「制作」と「鑑賞」のキーワードに基づいた3つのプログラムで構成され、つくば市、つくば文化振興財団、本学芸術系社会貢献推進室が主催し、つくば市教育委員会が後援した。

①「アート・デイキャンプ 2013」(7月27日、28日)

体芸エリア5C 棟大石膏室を主会場とした作品制作プログラムで、ダビデやニケなどの大型石膏像のほか、鉢植え植物、季節の果物などの静物をモチーフとして写生した。特に今回は、「筑波大学創造的復興プロジェクト週末アトスクール」と連携し、震災被災地(福島県)の小学生を受け入れた。また、障がいのある子どもも受け入れた。

②「アート・デイキャンプ 2013 展」(8月21日～8月29日)

アート・デイキャンプで制作した作品によるコンクール形式の展覧会を開催し、応募作品の中から優秀作品を表彰した(審査委員長：山本文彦筑波大学名誉教授：洋画家。審査員：芸術系教員2名)。小中高生による作品と特別参加の保護者や未就学児の作品 328 点を本学総合交流会館多目的ホールに展示した。(内訳：小学生 259 点、中学生 26 点、高校生 10 点、その他未就学児と保護者 43 点)

③「アートたんけん隊」(7月27日、28日)

本学の屋内外に展示されている芸術作品を鑑賞するプログラムで、2日間で 30 名が大学院生が用意した「鑑賞探検ツール」(目隠し鑑賞クイズ、なりきり鑑賞)や、アトリエ見学を行った。

**成果：**①参加者は年々増加し、今回は**過去最高の参加者！**：

②コンクール展で**「つくば市長賞」新設！**、昨年に続いて受賞作品の一部が**つくば市役所1階ロビーに展示！**

③平成 25 年4月、参加者の中から**本学芸術専門学群生が誕生！**

④平成 25 年7月、「第2回社会貢献報告会」において、「**つくば・地域連携推進賞 2013 優秀賞**」を受賞！

⑤平成 26 年3月、「**平成 25 年度学群教育に係る学長表彰**」として受賞！

現代社会では「こころの問題」が話題になっているが、子どもの頃からの図画工作や美術、音楽等による「情操教育」の減少が遠因ではないだろうか。本事業の真の成果が出るのは先のことであるが、毎年の実施を望む参加者や保護者、地域の声に応えつつ、将来を担う子どもたちの人間形成の一助になればと願っている。



5C 棟大石膏室での制作の様子



アートたんけん隊の様子